



伊予柑を置いて私の予約席

八塚一青

伊予柑は、厚めの皮を剥くと爽やかな香りが部屋中に広がる。甘味と酸味の濃い果汁がたっぷりで、どっしりと重みがある。文鎮にもよし。



焼芋や右手左手右手くち

月城花風

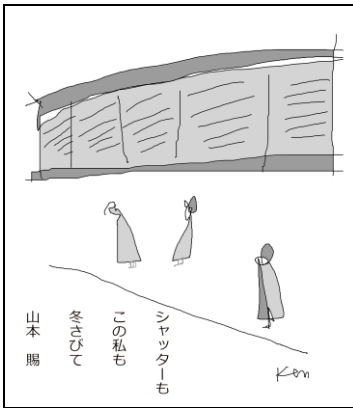
熱々の焼き芋を手にしての風景が進行形で活写されて可笑しい。「持ち替えた」などと動詞を使わずして名詞だけで動きを表現して愉快である。



雁首を揃へ討たれし落椿

西野周次

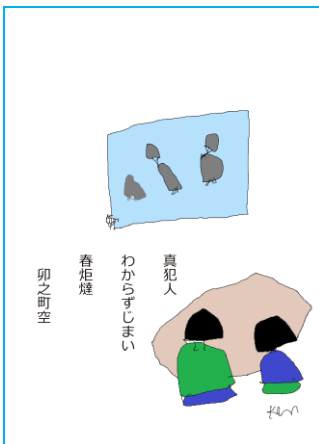
この句には作者の残念な気持ちが出ている。まだ十分に美しい椿が討たれたのだと見た。いっせいに落ちた椿を「雁首を揃へ」として怒りも表現。



シャッターもこの私も冬さびて

山本 賜

かつては賑った商店街も今やシャッター街。人通りの少ない街は何とも言えない寂しさがある。シャッターに自身を重ねてしみじみと人生を思う。



真犯人わからずじまい春炬燵

卯之町空

テレビドラマを見ていたが、うとうとしている間に話は終わっていた。ぼんやりした頭で考えてはみるが、結局、誰が真犯人だったのか謎のまま。



みいつけたかくれんぼうの藪椿

吉川正紀子

花が小さめで葉に隠れている藪椿を、かくれんぼしているのだとした場面設定が楽しい。「みいつけた」という子どもの言い方も可愛らしい。